

# H29 安中市立磯部小学校 学校評価一覧表①

自己評価（全教職員）：A十分に成果があった B成果があった  
C少しの成果があった D成果がなかった

(様式1)

羅 針 盤			方 策	自己評価①		自己評価②	
評価対象	評価項目	具体的数値項目 (数値目標はすべて100%とする)		自己評価	改善策	自己評価	改善策
I 保護者との連携	1 学校は保護者への連絡をきめ細かく行っていますか。	①「学校や児童の成長の様子がわかる」と答える保護者が100%である。	①各種たより等で学校の取り組みや児童の様子を保護者へわかりやすく伝えていく。Webページを充実させ積極的に新しい情報を伝えていく。	A	○学級だよりやWebページ等で学校での児童の様子や活躍を中心に保護者へ伝えていく。	A	○引き続き、学級だよりやWebページ等で学校での児童の様子や活躍を中心に保護者へ伝えていく。
	2 学校は保護者が学校を理解したり、協力したりしやすい環境を作っていますか。	②授業参観後の懇談会に参加している保護者が100%である。	②懇談会への参加状況を把握し、懇談会の進め方を工夫したり、内容(話題等)を事前に知らせたりして、保護者の参加意欲を高められるようにする。	B	○保護者参加型の懇談会にしたり、事前アンケートをとったりして内容や進め方を工夫して保護者の参加意欲を高める。	A	○保護者参加型の懇談会にしたり、事前アンケートをとったりして内容や進め方を工夫して、さらに保護者の参加意欲を高める。
II 確かな学力	3 学校の授業は、わかる授業になっていますか。	③「授業がわかる」と答える児童が100%である。	③学習指導要領を踏まえ、児童の実態に応じた教科指導を工夫し、「わかる授業」を目指す。 ④児童が話を最後まで聞くよう指導を工夫する。	A	○児童が問題を見つけて、それを自分たちで解決するような授業を展開する。	A	○引き続き、児童が問題を見つけて、それを自分たちで解決するような授業を展開する。
	4 進んで学習したり読書したりする習慣が児童に育っていますか。	④家庭学習や読書を、目標時間以上行っている児童が100%である。	⑤言語活動の充実を図り、習得や活用を重視した授業を通し、児童が自分で考え判断し、発表できるよう指導を工夫する。	B	○全校で統一した「話し方・聞き方」のめあてを活用して、特に話の聞き方について指導していく。	B	○話の聞き方について、態度の指導だけでなく、何を聞き取らせたいのかを意識して指導していく。
			⑥学習の中で、児童が疑問や問題に気づき、考えたり調べたりできるような指導の工夫する。	B	○児童が安心して発言できる雰囲気作りに努め、理由を付けて考えを発表できるように、計画的に発表の場面を設定する。	B	○児童が安心して発言できる雰囲気作りに努め、理由を付けて考えを発表できるように、計画的に発表の場面を設定する。
			⑦ステップアップ週間や「家庭学習の手引き」等を活用し、家庭学習や読書を目標時間以上行うことを習慣化させていく。特に、読書活動を充実させていく。	A	○学習の中で、児童が疑問や問題に気づき考えられるような指導過程や場の設定などの工夫する。	A	○学習の中で、児童が疑問や問題に気づき考えられるような指導過程や場の設定などの工夫する。
III 豊かな心	5 進んであいさつしたり、はっきり受け答えしたりできる児童が育っていますか。	⑤進んであいさつできる児童が100%である。	⑧児童がすすんであいさつをするよう日常のあいさつやTPOにあわせたあいさつの指導を継続的に行う。	A	○「あいさつ運動」を充実させ、学校だけでなく家庭や地域でも挨拶ができるように指導する。	A	○引き続き、「あいさつ運動」を充実させ、学校だけでなく家庭や地域でも挨拶ができるように指導する。
			⑨児童が集会や授業の始まりなどの時刻を守れるよう、教師が率先して励行し継続的に指導する。	A	○時間を守ることの大切さを、授業や集会等の場で、繰り返し指導していく。	A	○時間どおりに授業を開始終了し、時間を守ることの大切さを、授業や集会等の場で、繰り返し指導していく。
	6 いじめのない温かな人間関係が育っていますか。	⑥相手の立場や気持ちを考えた、親切的な言動がとれる児童が100%である。	⑩学校生活全般で、日常的・継続的に児童に相手の気持ちを考えて親切的な言動をとるよう指導する。	A	○相手の気持ちを考えた言動ができた児童を積極的に賞賛する。	A	○相手の気持ちを考えた言動ができた児童を、教師が積極的に賞賛する。
			⑪友だちと協力して、清掃活動や係活動に取り組めるように指導する。	A	○清掃の方法や清掃の意義について理解させ、毎日真剣に清掃活動に取り組ませる。	A	○清掃の方法や清掃の意義について理解させ、毎日真剣に清掃活動に取り組ませる。

			⑩家でのお手伝いや役割分担が積極的にできるよう働きかける。	B	○生活科や総合、道徳や学級活動などで積極的に扱い、児童の意識を高めるとともに、家庭への啓発を行う。	B	○ステップアップ週間に学習、あいさつと合わせて、家庭と連携して指導していくようにする。
		⑦いじめの発生予防に努め、いじめの解消率が100%である。	⑬定期的に「心のアンケート」などをとるなどして、いじめの早期発見・早期解決に努める。	A	○日常の行動観察や定期的な「心のアンケート」などから、いじめを早期発見・早期解決する。	A	○日常の行動観察や定期的な「心のアンケート」などから、いじめを早期発見・早期解決する。
IV 健康・体力	7 規則正しい生活をしている児童が育っていますか。	⑧食事（朝食）や睡眠の意味と役割を理解し、規則正しい生活をしている児童が100%である。	⑭学級活動や保健指導などを通して、児童に早寝・早起き・朝ご飯など、規則正しい生活をするよう指導する。食育の充実に取り組む。	A	○学級活動における指導や学級だより・保健だより等を通して、家庭への啓発していく。	A	○学級活動における指導や学級だより・保健だより等を通して、家庭への啓発していく。
	8 日常的に運動に取り組めるよう、時間や場などの環境を整えていますか。	⑨運動等めあてにむけて根気よく努力する児童が100%である。	⑮児童がねばり強くたくましい子に育つよう、運動等めあてに向けて根気よく努力するよう指導する。	A	○運動関係の行事をきっかけとして、児童が粘り強くたくましい子に育つように、めあてにむけて根気よく努力するよう指導する。	A	○運動関係の行事をきっかけとして、児童が粘り強くたくましい子に育つように、めあてにむけて根気よく努力するよう指導する。
V 安全確保・施設設備	9 学校施設の安全管理や避難訓練を徹底していますか。	⑩安全点検を月1回実施し、防犯や避難、救護などを想定した避難訓練を学期1回以上実施し、安全を意識して取り組んでいると答える職員が100%である。	⑯火災、地震、竜巻、不審者の侵入を想定した避難訓練を実施するとともに、毎月の安全点検の徹底を図る。また、配信メール等を活用し、家庭と連携し児童の安全確保に努める。各種防災マニュアル等のさらなる確認、改善をしていく。	A	○防災マニュアルの確認と改善を図っていく。火災、地震、不審者の侵入を想定した避難訓練を実施するとともに、毎月の安全点検の徹底をする。	A	○防災マニュアルの確認と改善を図っていく。火災、地震、不審者の侵入を想定した避難訓練を実施するとともに、毎月の安全点検の徹底をする。
	10 通学路の安全対策をとっていますか。	⑪事故の発生原因を理解し、正しい歩行の仕方や自転車の乗り方ができる児童が100%である。	⑰交通安全指導を定期、随時に、学校、家庭、関係機関と協力して指導の徹底を図る。安全安心ネット等地域との連携を深めていく。	A	○交通安全指導を定期、随時に、教師、家庭、関係機関と協力して指導する。	A	○引き続き、交通安全指導を定期、随時に、教師、家庭、関係機関と協力して指導する。
		⑫安全な登下校（通学路の危険箇所）について子どもと話し合ったり確認し合ったりして、緊急時の対応がとられている家庭が100%である。	⑱通学班会議・集会、一斉下校やたより等で危険情報を子どもや家庭に伝える。また、通学路の安全点検を行ったり、地域の各団体と連携を密にし情報収集に努める。	B	○児童自身の危機意識を高めるように、登下校で危険を感じる場所を児童に確認させたり、それを基に安全マップを見直したりさせていく。また、それを保護者にも発信し、家庭で話し合う機会としていく。	B	○児童自身の危機意識を高めるように、登下校で危険を感じる場所を児童に確認させるとともに、それを保護者にも発信し、家庭で話し合う機会としていく。また、緊急時の引き渡し訓練を計画し、保護者の効き市域も高めていく。
VI 進路・生き方	11 児童が自らの将来について考える機会を設けていますか。	⑲将来の夢や希望について、親子で学期1回以上話し合う機会を設けている家庭が100%である。	⑳道徳や学級活動、学校行事等に関連付け作文を書かせたりして、目標や夢や希望を持たせるようする。また、家庭への啓発も積極的にを行い協力して指導していく。	B	○児童が将来のことについて考える機会を設定し、それを道徳の授業で発展させたり、保護者と一緒に考える機会となるように計画したりする。	B	○キャリア教育の計画を見直し、各教科、道徳、特活等を通した横断的な指導ができるように、指導計画を作成し、実施していく。
VII 組織・運営	12 学校教育目標の達成に向け、教職員が一体となって努力していますか。	⑲学校教育目標の達成に向け、教職員が一体となって努力していると答える職員が100%である。	㉑学校教育目標の達成に向け、教職員が一体となって努力できるような職員の共通理解を図っていく。	A	○学校教育目標の確認を定期的に行い、達成に向けた全教職員が一体となって努力していく。	A	○「チーム磯部」意識して、学校教育目標の確認を定期的に行い、達成に向けた全教職員が一体となって努力していく。
	13 教職員は、設定した自己目標の達成に向け、主体的に日常の教育実践に取り組んでいますか。	⑲教職員は、設定した自己目標の達成に向け、主体的に日常の教育実践に取り組んでいると答える職員が100%である。	㉒自己目標の達成に向け主体的に日常の教育実践に取り組む。教職員個々が、自分の資質や能力を生かせるよう校務分掌等でその責務を果たすように努める。	A	○自己目標の達成に向けた主体的な教育実践に取り組む。	A	○引き続き、自己目標の達成に向けた主体的な教育実践に取り組む。
	14 校内研修は、教師の資質向上と授業改善に結びついていますか。	⑲校内研修は、教師の資質向上と授業改善に結びついていると答える職員が100%である。	㉓教師の資質向上と授業改善に結びつく校内研修に積極的に参加し、その充実に努める。	A	○授業実践を中心に教師の資質向上と授業改善に結びつく校内研修を進める。	A	○引き続き、授業実践を中心に教師の資質向上と授業改善に結びつく校内研修を進める。